

平成 21 年 8 月 6 日

雲南市議会議長 堀江 眞 様

産業建設常任委員会委員長 堀江 治之

産業建設常任委員会行政視察研修報告

下記のとおり視察を行いましたので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 21 年 7 月 16 日（木）～7 月 17 日（金）
2. 視察先 徳島県勝浦郡上勝町
広島県尾道市
3. 参加者 産業建設常任委員会
堀江治之委員長、藤原信宏副委員長、板持達夫委員、
山崎正幸委員、加藤欽也委員、土江良治委員、高橋雅彦委員
随行職員
総務部 原修統括技師、議会事務局 原淳夫副主幹
4. 研修目的
 - ・ 地域資源を活用した地域振興について
 - ・ 中国横断自動車道「尾道松江線」の進捗状況について
5. 研修まとめ

まず徳島県上勝町とは・・・

徳島県の県庁所在地徳島市より南西へ約 40 k m（車で約 50 分）の位置にあり、人口約 2,000 人・面積約 110 平方キロメートルでその 85.6%が山林であり、四国で一番小さな町とされている。



月ヶ谷温泉交流施設

(1) 木質バイオマスについて・・・

説明者：(株) かみかついっきゅう 支配人 鶴代修一氏

上勝町では二酸化炭素排出抑制の取り組みとして平成 16 年度から 3 年間で上勝町月ヶ谷温泉交流施設に木質チップボイラー2基を約1億3千5百万円(内国交付金7千4百万円)で設置し、温泉の加温に利用している。



木質破砕材

燃料のチップはペレット状ではなく、間伐材を破砕しただけの物であり、1日約1.4トン使用し、年間の山林間伐面積にして150ha～200haに匹敵し、化石燃料の使用でなく木質バイオ使用により、二酸化炭素の排出抑制に併せ山林の間伐の促進が図れ、まさに一石二鳥の効果と言える。



木質チップボイラー

(2) 「^{いろどり}彩」事業について・・・

説明者：(株) いろどり 代表取締役 横石知二氏

上勝町の特産であるみかんが昭和 56 年の局地的な異常寒波に襲われ枯渇し、農業に大きな打撃を与えたことを契機として、活性化策の検討の結果、「彩」いわゆる「葉っぱビジネス」等の取り組みが、新しい産業として取り組まれ、幾多の困難を乗り越え現在の様な全国的に知れ渡るようになり、年間 4,500 人の視察を受け入れている。

「彩」事業は、料理のつま物として、紅葉、柿、南天、椿の葉、梅、桜、桃の花等を商品として、販売額は年間約 2 億 6 千万円程度で、平均年齢 70 歳の方約 200 人で事業展開されており、まさに地元の資源の有効利用であり、学ぶところが多くあった。



視察研修状況

(3) 棚田オーナー制度について・・・

説明者：上勝町役場産業課 横田正和氏



葉っぱの採取風景

棚田 1 区画約 100 m²の年間利用料 5 万円が 20 区画の他、畑 4 区画、果樹（すだち、ゆず、キウイ、梅等）26 本のオーナー制度に大学の研究室、農業の修行、徳島の市民の方等がオーナーとなり、農家の人々との触れ合い、交流の場とし、更に自分の手で安全・安心の美味しい米、野菜、果物を作られている。

オーナー料が高額であるように思えるが、オーナー希望が多いのは、やはり「上勝」と言うブランド力によるものではないか。

(4) 中国横断自動車道「尾道松江線」尾道ジャンクションについて・・・

(建設中道路の実走行：広島県尾道市～甲山区間)

説明者：国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所
西日本高速道路（株）中国支社尾道工事事務所

・尾道ジャンクション橋の施工状況

尾道ジャンクションはB・C・Dランプは総延長 827m の高架橋とAランプとにより山陽自動車道と接続される計画となっており、7 月末に高架橋部は完成し、山陽自動車道とジャンクションは高いもので約 60m の橋脚が十数本立ち並び勇壮な眺めとなっている。



尾道ジャンクション

・尾道ジャンクションから（仮称）甲山インターチェンジ間の施工状況

大変進んでいる様に感じられ、後一年か二年もすれば供用が開始出来るのではないかと感じられる程進んでいる状況となっている。



このような状況から、雲南市としても高速道路を活用した振興策の検討を早急に対応しなければならないと痛感しました。

(仮称) 甲山インターチェンジ付近